

基礎・基盤的取組

委員会の主要意見		主要意見に対する国環研の考え方
現状について の評価・質問 など	第5期を通じて、先見的研究・政策対応研究・知的研究基盤の各領域で、基礎・基盤的取組が体系的かつ着実に推進され、国内外の政策・研究を支える成果が創出された。長期モニタリング、標準化、データベース整備、試料保存など、国環研ならではの知的研究基盤が安定的に維持・強化され、国際的にも重要な貢献を果たしている。	評価いただきありがとうございます。今後も今後も、先見的・先端的基礎研究や政策対応研究、長期モニタリングをはじめとする知的研究基盤の維持・強化を図り、科学的知見に基づく政策立案や社会実装への貢献に努めます。
	WBGT などの高解像度予測データの適切な利用方法や不確実性の伝達は課題である。	予測データの使い方はご指摘の通りだと思っております。様々なデータの開発者とデータの利用者とのコミュニケーションに関して、気候変動適応法の下で実施している支援業務の一環として精力的に取り組んでいきたいと考えております。
今後への 期待など	長期モニタリングや試料・データアーカイブを維持し、将来の環境変化評価や政策形成に資する研究基盤として強化することを期待する。	地球環境モニタリングでは、事業として長期的な視点で取り組むことができる現行の体制を継続するためにも、一層の成果の発信を心がけたいと思います。アジア太平洋域で国環研が担うべき国際貢献を今後も意識いたします。 湖沼長期モニタリングでは、より効率の良いモニタリング手法の開発、収集した細胞を用いた環境研究への応用およびゲノム情報の付与などによる保存株の付加価値向上に努めてまいります。
	社会システム分野を中心に、温暖化の減速に関して、国内、国際的な合意と行動変容に効果的に繋がるよう、さらに研究を加速していただきたい。	次期中長期計画においては、分野横断研究 PG1 を中心に気候変動問題に加えて資源循環、自然再興も加えた研究に取り組む予定です。国際的な合意と行動変容に結びつくように研究成果の発信も行っていきたいと考えています。
	環境・リスク健康分野で、欧州のように、速やかな、環境基準などの法制化をより加速することを期待する。	ご期待をいただきまして、ありがとうございます。化審法では経産省、農取法では農水省との折衝があるほか、環境基準設定

		<p>では産業界とのネゴシエーションがあるなど、国内では法制化のハードルはなかなか厳しいところがありますが、各化学物質や影響ベースでのモニタリングデータを公表することで、社会へのインパクトを与え、それによって法制化や事業者の自主的取り組みが進むなど、欧州や米国など諸外国から学ぶことは学び、迅速な対応ができるようレギュラトリーサイエンス研究を進めていきます。</p>
--	--	---

気候変動・大気質研究プログラム

委員会の主要意見		主要意見に対する国環研の考え方
現状についての評価・質問など	第5期を通じ、炭素吸収量・BC排出量の長期変化把握や将来予測の高度化など、観測・モデル・逆解析を統合した研究により顕著な成果が創出された。GCP、IPCC、COP、北極評議会、GSTなど国際枠組への継続的な知見提供を通じ、科学と政策の接続および環境ガバナンス強化に大きく貢献した。	評価いただき、ありがとうございます。
今後への期待など	長期モニタリングと地球規模モデルを統合した科学的警鐘発信を継続し、国際社会および政策形成への貢献を強化することを期待する。	今後も長期モニタリングと地球規模モデルによる将来予測を通じて、気候変動の実態把握と将来リスクの提示を継続してまいります。さらに、セクター別の排出削減効果や適応策の評価を定量的に示す研究を推進し、国際的議論や政策形成に貢献してまいります。
	世界第一線の観測プラットフォームの維持と数値モデル高度化を進め、GHG・SLCF収支推計や将来予測精度をさらに向上させていただきたい。また、地域別のCO ₂ 、CH ₄ 、N ₂ Oなどの推計方法が確立され、それらの排出削減に結びつけられると、環境保全に大きく貢献できるものと考えます。	長期観測の継続とモデル改良、データ同化技術の高度化を進め、推計精度の向上に取り組んでまいります。また、地域別排出量の推計手法についても高度化を図りたいと思います。
	プログラム全体としての統合的なメッセージや、他分野・政策との接続については、今後さらに意識的な整理が期待される。	次期では、成果をより広くわかりやすく統合することで、プログラム全体としてのメッセージ性を高めるとともに、社会的課題の解決に資する情報発信の強化に取り組んでまいります。

物質フロー革新研究プログラム

委員会の主要意見		主要意見に対する国環研の考え方
現状についての評価・質問など	第5期を通じ、「目標設定一要因同定・除去一技術開発」という体系的枠組みに基づき、物質フロー革新に向けた科学的知見と技術開発が着実に進展した点は高く評価される。	システム、リスク、技術開発研究の物質フロー変革に対する役割を明確に定めたプログラム構成に対応した研究成果を高く評価いただき、ありがとうございます。
	PJ間連携によりPFAS排出抑制方策の提示など、政策貢献につながる具体的成果が得られている。	システム、リスク、技術開発研究の連携は、水銀の水俣条約対応、PFASの資源リサイクル時の動態評価等に発展し学術論文成果、シンポジウム開催にも繋げてまいりました。高く評価していただきありがとうございます。
今後への期待など	引き続き、建築材料の脱炭素化やバイオメタン、バイオ炭の活用等、国内の生物資源の活用促進につながるような、関連分野との一層の連携強化と成果の発信を期待する。	ご指摘のとおり、建設材料の脱炭素化とともに、バイオメタン・バイオ炭等の国内生物資源の活用は資源循環と脱炭素の同時達成に直結します。次期では、エネルギー・都市ガス・農地管理等の関連分野との連携をさらに強化し、地域実装・政策提案に資する技術システムでの定量指標を整備するとともに産学官・自治体向けの情報発信と社会実装の事例創出を進めます。
	「安定隔離」についても検討をお願いしたい。	安定隔離はプロジェクト3でこれまで報告した内容をベースとして、①化学固形化などの形態安定化、②構造物の長期信頼性予測と対策、③万一の漏洩時のバリアや監視も含め、隔離の安全性を総合的に設計・検証することを指します。上記の検討を継続するとともに、長期リスク低減方法の明確化も含めた枠組みとして一般向けに技術ガイドラインを発信していきます。
	結言の”環境行政は「物質循環と調和する化学物質管理」を理念とするような物質循環と安全を両立する政策へと移行する”の実現を期待する。	PJ2の個別成果に基づいて最終年度に取りまとめた物質利用・循環フローの維持や転換と調和する化学物質・環境汚染物管理の共通的な考え方と枠組みをもとに、環境省や関係各所との対話を行うとともに、次期中長期でもさらなる研究の展開を図り、物質循環と安全を両立する政策への移行を促してまいります。

包括環境リスク研究プログラム

委員会の主要意見		主要意見に対する国環研の考え方
現状についての評価・質問など	発生源解析から多媒体動態、影響評価、規制・管理方策までを統合した包括的環境リスク評価の枠組みを構築し、国立研究機関としての役割を明確に示した点が高く評価される。	包括的な環境リスク評価、それに基づく適切な化学物質管理方策の策定への貢献について、高く評価をいただき、ありがとうございます。
	環境省、国連（GFC）、科学政策パネル（ISP-CWP）等との連携を通じ、国際的政策形成への貢献が進展している。	環境省との連携や、国連の化学物質管理枠組みや科学政策パネルへの貢献についての貢献も高い評価をいただき、ありがとうございます。引き続きレギュラトリーサイエンス研究の成果実装に務めてまいります。
	プログラムの対象が非常に広く、対象物質・評価軸・関与主体も多岐にわたるため、研究の焦点が分散するリスクも内包している。今後も、統合と集中のバランスを常に意識したマネジメントが不可欠である。	第5期中長期では、これまで評価が十分できなかった物質や影響に着目して、発生源から動態、影響、規制・管理に至るまで研究を進めましたが、ご指摘の様に多岐にわたる研究であり、モニタリングなど一部は研究の焦点が分散した点は認めません。次期中長期では、統合と集中をはかるとともに、そこでカバーできないものを安全確保PJで実施、さらにモニタリング部分は知的研究基盤として切り分けることで、適切なマネジメントを実施する予定です。
今後への期待など	今後も、他のPGとの連携を維持・強化しつつ、包括的な健康リスク指標および生態リスク指標の構築が進むことを期待する。	指標の構築については、国連の国際的化学物質枠組み(GFC)でのHigh Level Indicator作成がまさに進んでいるところであり、そちらへの貢献とともに、今後の(Post-)SDGsや昆明・モントリオール議定書の化学物質管理に関するターゲット構築で国内外をリードできればと思います。
	環境リスク評価と政策判断との接続がわかりにくい。また、科学的知見を国際的意思決定や政策判断にどう反映するかという、化学物質管理と環境正義を結ぶ議論への貢献が強く期待される。	今後も得られた成果の政策判断との接続を推進し、明確化を図りたいと思います。特に本研究プログラムの主題である不確実性を前提にしながらも脆弱な集団に対するリスクを可視化し、これらの成果を実際の化学物質管理（環境省、国連など）に活

		<p>用することで、環境正義につながる取り組みをさらに進めていければと思います。</p>
	<p>今後も続く、多様な新物質に対応可能な予防環境学の先導、発展を期待する。</p>	<p>多種多様な新たな物質の開発・使用・廃棄され、環境中に排出されることから、引き続き予防原則の立場に立って未知・未規制・未解明の物質や影響に関する研究を推進してまいります。</p>

自然共生研究プログラム

委員会の主要意見		主要意見に対する国環研の考え方
現状についての評価・質問など	本プログラムは、生物多様性の保全・利用・主流化をバランスよく推進し、学術的に高水準な成果と社会実装につながる成果の双方を創出した点が高く評価される。	ご評価くださりありがとうございます。次期自然共生プロジェクトで行動変容も含めた自然と人間の関係の適正化に取り組んでまいります。
	本プログラムは、気候変動・資源循環・地域協働といった他プログラムとの親和性が高く、国立環境研究所の全体の統合性を支える“接着剤”的役割をも果たしている。エコチルとの連携研究開始も評価でき、さらに他のプログラム等との連携も重要になるとと思われる。	自然共生は他分野にまたがっているので、さまざまなステークホルダーとの適切な協働を模索してまいります。
今後への期待など	生態系の管理戦略やレジリエンス、保全と利用の両立といった問題解決に至る部分については、まだまだやり残している研究課題もあると思われる。生態系の利用サービスと生物多様性のバランスをとる、NbSの一層の推進が期待される。	NbS に関しては、他の環境問題との同時解決を目指し、次期のプログラムで引き続き推進してまいります。
	自然を「守る対象」にとどめず、社会課題解決に活かす NbS とゾーニングを制度実装まで結びつけた点で、自然共生ガバナンスとして成熟した捉え方を示している。地域住民や多様なステークホルダーとの協働を明示的な柱として位置づけることで、社会的正統性がさらに高まると期待される。	ご評価くださりありがとうございます。さまざまなステークホルダーとの協働を模索してまいります。
	国際的に主導的役割を発揮するうえで、NIES としての戦略的位置づけをどうするかを明確にすべきである。	国際的な貢献に関しては、生物多様性条約や IPBES 等の動きもフォローしつつ進めてまいりたいと思います。

脱炭素・持続社会研究プログラム

委員会の主要意見		主要意見に対する国環研の考え方
現状についての評価・質問など	第5期を通じ、各PJで成果が着実に蓄積され、高水準の論文成果と社会課題対応を両立した研究が推進された点は高く評価される。地球規模から国家規模までのモデル連携により排出経路評価や脱炭素社会のロードマップが提示され、IPCC AR7への貢献や国際的リーダーシップが認められる。	評価していただき、ありがとうございました。引き続き、脱炭素社会の実現に向けた研究に取り組み、成果を発信していきます。
	メガソーラーに関して、太陽光発電の有効性の検討の際に、補助事業など政策的な条件や太陽光パネルなどの耐用年数経過後の処分なども考慮に入れて検討されているか。	太陽光パネルの耐用年数経過後の処分については、太陽光パネルだけを評価しているわけではありませんが、廃棄物処理部門として評価しています。関心の高い問題でもありますので、具体的な処分等についても明示できるように検討していきたいと考えています。
今後への期待など	脱炭素とネイチャーポジティブとの連携の深化が期待される。	脱炭素とネイチャーポジティブとの両立につきましては、次期中長期計画のプログラムにおいて取り組む課題ですので、しっかりと研究を進めるとともに、成果を発信していきたいと考えています。
	2050年以降を視野に入れた長期シナリオや便益評価を進め、産業界に対して「気候対策は利益につながる」というメッセージを強化することも重要と考える。	国内の排出シナリオも2050年を超えて定量化することは可能で、いかにしてマイナスの排出を維持するかといった点についてリアリティをもって評価していきたいと考えています。便益の評価につきましてもご指摘の通りですので、どのようなメッセージが対策を後押しするかを踏まえて分析を深化させていきたいと考えています。
	府省庁を跨ぐ政策立案への活用やIPCC-AR7への貢献に向けた研究の推進が期待される。	引き続き、脱炭素社会の実現に向けた研究に取り組み、成果を発信するとともに、政策提言や民間への提言に向けて、どのようなメッセージが重要となるかを検討し、研究を進めて成果を発信していきます。

持続可能地域共創研究プログラム

委員会の主要意見		主要意見に対する国環研の考え方
現状についての評価・質問など	第5期を通じ、自治体支援や地域共創を通じて、持続可能な地域社会の形成に資する実践的成果が着実に創出された。人口減少下のインフラ維持や廃棄物処理（LCCN）、自然保護と利活用の両立など、地域課題に対する具体的かつ実装志向の研究が進められた。	成果をご理解いただき、ありがとうございます。一方で、地域研究における国環研の役割やしばしば指摘されてきた成果の一般化や横展開については、今期の成果や反省を踏まえ、次期のプログラムやプロジェクトなどで活用できるよう引き継いでまいります。LCCNについては、国内外の複数のコンビナートで実装に向けた詳細な検討が行われており、次期においても支援を継続するとともに、他地域への水平展開を図ってまいります。
	地域と協働したケーススタディや五島市・鹿児島等との連携により、社会的価値や地域活性化に結びつく成果が確認された。	成果をご理解いただきありがとうございます。意図しないところでの副次的な成果もあるということをお忘れず、今期の成果や反省を踏まえ、次期のプログラムやプロジェクトなどで活用できるよう引き継いでまいります。
今後への期待など	人口減少・地域縮小を前提とした持続可能な地域社会モデルの研究をさらに深化させることを期待する。	ご指摘の通り、将来の人口減少が進む中での持続可能な社会構築は重要な視点としますので、現状だけではなく将来的な視点も含め進めていけるよう引き継いでいきます。
	自治体政策との時間軸のずれを踏まえ、早期からの自治体連携や長期継続型の研究体制を構築することを期待する。	このプログラムは国環研として初めて取り組んだものであり、状況把握やステークホルダーとの関係構築などに時間がかかったことは否めません。すでに関係を構築している自治体等も多くありますので、今期の成果や反省を踏まえ次期のプログラムやプロジェクトなどで活用できるよう引き継いでまいります。
	個々の課題解決策提案をより一般化・整理した学術的な研究成果の発信が今後期待される。	一般化や横展開も重要ですが、地域の実情はかなり異なるので、ご指摘の通り地域のステークホルダーが自らの将来に関心を持ち、自律的に持続可能な社会を構築できるよう国環研が支援することも重要と思います。研究を長期的に継続し、課題に取り組んでまいります。

災害環境研究プログラム

委員会の主要意見		主要意見に対する国環研の考え方
現状についての評価・質問など	第5期を通じ、福島復興を中心に放射線リスク低減や復興シナリオ提示など、災害復興に資する基盤的成果が着実に創出され、「災害環境学」創成に向けた重要な知見が蓄積された点が高く評価される。	「災害環境学」の確立に向けた我々の取組を高く評価いただき誠に有難うございます。次期中長期において平時の取組の在り方について、これまでの蓄積も活かしつつ検討を進めていきたいと思ひます。
	「地域社会の災害レジリエンス向上」については、社会の制度や人々の認識と関心、国と地域の予算など様々な要素を揃えていく必要がある。	ご指摘の点は大いに同意するところであり、今後、災害レジリエンスに係る所内横断的な取組を進めていきたいと思ひます。
今後への期待など	地域に入って検討することは重要だが、同時にそれを普遍化することも重要である。日本への注目がある課題でもあり、今後の広がりを期待したい。	本プログラムで得られた知見を含めた先進事例を集約し、体系化を図ることで普遍化に取り組み、少しでもご期待に沿えるよう努めます。
	今後、所内外の関連技術や知見も活用し、様々な災害や事故に伴う、より最適な対応に資する幅広い観点からの研究の推進を期待する。	災害環境学の確立を目指した取組を含め本プログラムの取組や成果について評価いただき有難うございます。ご期待に沿えるよう、災害と環境に係る研究の取組を今後も進めてまいります。
	災害環境学は近年の防災と環境の融合の中で埋もれず、リーダーシップを発揮していただきたい。	ご期待に沿えるよう、災害と環境に係る研究について主導的に取り組めるよう努めてまいります。

気候変動適応研究プログラム

委員会の主要意見		主要意見に対する国環研の考え方
現状についての評価・質問など	第5期を通じ、「メカニズム解明 → 影響評価 → 適応策提案・実装」という統合的研究枠組みが構築され、気候変動適応研究の基盤が確立された点は高く評価される。影響観測やシナリオ分析の拡充、適応緊急性指標の提案、適応効果の一部定量化など、科学的・政策的に重要な成果が創出された。	次期中長期においても数多くの研究性を創出すべく精進してまいります。
今後への期待など	沿岸・海洋生態系に加え、陸域での適応策の検討がさらに進展すると良い。また、これらの成果を今後多様な組織や機関と連携し、政策を含めた対応策につながることを期待する。	次期中長期においても分野研究の適応PJとしてさらに発展させていく所存です。ご指摘いただいた陸域での適応策の検討については、次期中長期のPG2（自然を活用した解決策（NbS）の実装と展開に向けた研究プログラム）と連携して進めてまいります。また、支援業務を通じて複数の組織や機関と連携し、政策を含めた対応策に繋げるよう努力いたします。
	「適応学」の構築に向け、統合的な議論につながる研究計画が次期中期計画機関で展開されることを期待する。	今中長期で検討した「適応学」の骨子を踏まえて、より発展的な研究に取り組んでいくように努力いたします。
	地域依存性を踏まえつつ、個別事例を統合し優先順位付けや合意形成を支援する統合プラットフォームの構築を進めると同時に、観測・緩和・適応を統合した研究展開を推進していただきたい。	アドバイスいただいた「優先順位付けや合意形成を支援する統合的プラットフォームの研究」を次期中長期の分野研究で実施する適応PJや知的研究基盤において取り組んでいく所存です。また、次期中長期においては、研究範囲を広げるとともに、他の研究PG・PJと連携して気候危機への解決に繋げていきたいと考えております。

気候危機対応研究イニシアティブ

委員会の主要意見		主要意見に対する国環研の考え方
現状についての評価・質問など	若手研究者を中心とした活発な議論や自由討論が展開され、PG・PJ間および研究機関間の連携創出に大きく寄与した点は高く評価される。	若手研究者が参加しやすい仕組み、外部資金研究提案を促進する企画などが必要であるという意見は、現プログラム総括からも示されています。次期中期計画での気候危機イニシアティブを継ぐ活動の見直しに際して参考にさせていただきます。
	適応・緩和・自然共生・資源循環を横断する「調整・翻訳の場」として機能し、新規連携や外部資金獲得（S-21等）につながった点は意義が大きい。	評価いただきありがとうございます。次期中期計画では、連携がより機能的なものとなるように、工夫を重ねるよういたします。
今後への期待など	PG間、PJ間でのアウトリーチ／インテークによって何ができるようになったのかがメンバー全員に見える化される仕組みがあると、共通理解が進んでさらなる連携も生まれてくるのではないだろうか。	ご助言のように「見える化の仕組み」については、連携の動機付けにとって有効に思えます。次期中期計画での気候危機イニシアティブを継ぐ活動の見直しに際して参考にさせていただきます。
	さまざまな連携した取り組みが行われており、社会に対する発信も行われている。これらの取り組みが継続され、SNSなども活用し多くの世代に対して発信されることを期待したい。	SNS活用や対外発信については、連携推進部対話オフィスと共同で行うことも検討し、対話オフィスのこれまでの経験も活かした広い世代向けの発信に努めます。
	つくば市の特徴を活かした研究機関間の連携や次期中長期計画でのPG間連携の継続・強化が期待される。また、広範な研究者対象のもの、分野横断だがテーマを絞ったものを並行して実施し外部資金獲得を目指す等、モチベーションを維持するような方策も重要と考えられる。	つくば市にある他研究機関との連携活動については、次期中長期にても複数のプログラムや分野研究にて継続実施されることが予想されるので、その情報共有の仕組みの検討に努めます。また、外部資金研究提案を促進する企画などが必要であるという意見は、現プログラム総括からも示されています。次期中期計画での気候危機イニシアティブを継ぐ活動の見直しに際して参考にさせていただきます。

【二大事業】衛星観測に関する事業

委員会の主要意見		主要意見に対する国環研の考え方
現状についての評価・質問など	GOSAT・GOSAT-2・GOSAT-GWの観測・データ処理・プロダクト提供が計画的に進められ、国内外機関との連携、論文発表、政策貢献など多面的成果が確認される。	GOSATシリーズ衛星3機の運用と4号機の実現により、我が国にしかない長期全球観測データやそこから得られた科学的知見の国際社会への発信を継続します。また環境省と連携し、他国におけるGOSATデータ利用を加速します。
	GOSATシリーズによる長期・高精度の温室効果ガス観測が継続され、国別・セクター別排出量評価や全球炭素収支解析に貢献する世界トップ水準の科学的成果が創出されている。	評価いただきありがとうございます。
今後への期待など	アジア諸国を含む国際共同研究や衛星データ共有を拡大すると同時に、全球炭素管理やグローバルストックテイクへの貢献をさらに高めていただきたい。GHG以外の観測成果や社会的価値を含めたアウトリーチ・広報を充実させ、国際的・社会的認知を一層高めることを期待する。	インド・中国・韓国とは共著論文・相互訪問など研究者個人レベルでのデータ共有・情報交換が実現できています。ただ正式な機関間協力については正直なところやや敷居が高いです。今後努力します。また、他国の宇宙機関との協定を生かした衛星観測推定値の比較や、国際機関（WMOやUNEP）や民間衛星データプラットフォーム経由でのアウトリーチ強化に努めます。
	科学的信頼性と国際貢献は素晴らしいが、「科学→政策→地域実装」への翻訳設計（ガバナンス、人材、データの渡し方）が次段階の評価軸になりうる。特に自治体・途上国利用を意識した設計強化が今後望まれる。	地方自治体や途上国における1～3号機のデータ利用を環境省と連携しながら進めるとともに、そういった活動で得られた知見の4号機の設計への反映も考えたいと思います。
	4号機の計画において、今までのGOSATシリーズの各号との役割分担など考慮して、効率の良い運用がなされることを期待する。	4号機の設計においては、1～3号機との継続性／差別化や我が国の強み／他国との差別化、国際的ニーズなども視野にいれて取り組みたいと思います。

【二大事業】エコチル調査に関する事業

委員会の主要意見		主要意見に対する国環研の考え方
現状についての評価・質問など	第5期を通じて大規模長期出生コホートとして計画的にデータ・試料を蓄積し、多数の学术论文（400報超）や人材育成に貢献した点は極めて高く評価される。	引き続き計画に沿って着実にデータの収集を進め、エビデンスの創出に努めると同時に、それらを通じての人材育成やデータ利活用の推進に努めてまいります。
	PFASを含む多様な化学物質の健康影響解析や追跡期間の40歳までの延長など、国際的にも希少性・学術価値の高い研究基盤を確立している。	計画に沿って着実にデータの収集を進め、エビデンスの創出に努め、事業の継続意義を失うことがないように努めます。PFASに関わる研究成果についてもエビデンスを更に創出し、健康影響に関する提言に資する情報として提供できるよう努めてまいります。
今後への期待など	不確実性を前提とした知見の社会的翻訳と、意思決定レイヤーの整理が今後重要となると考えられる。	不確実性を前提とした疫学研究についての研究成果の発信におけるリスクコミュニケーションのあり方についてはご指摘の通り大きな課題となっており、エコチル調査からのエビデンスを活用する行政当局とも連携して検討を進めてまいります。
	長期追跡データを活用し、因果関係の解明や政策・健康対策へのフィードバックを進めることを期待する。	引き続き計画に沿って着実にデータの収集を進め、エビデンスの創出に努め、因果関係の示唆を含む健康影響に関する提言に資する情報として提供できるよう努めてまいります。
	次世代影響や新規化学物質への対応を含めたフォローアップを期待する。	今後の展開における次世代影響についても環境省の基本計画に反映されるよう議論を進め、国民の健康や環境保健政策に貢献できるよう努めます。